



2009 ~ 2010 年度
R I テーマ

The Future of Rotary Is in Your Hands
ロータリーの未来はあなたの手の中に

国際ロータリー会長 ジョン・ケニー (国籍・スコットランド)

2720 地区

別府中央ロータリークラブ



例会日 火曜日 12 時 30 分
ところ トキハ別府店 7F ぼたんの間
TEL 23-1111
事務所 別府市西野口町 1 番 1 号 青山通りビル 3F
〒874-0931 TEL (0977) 23-9000
FAX (0977) 23-9019
http://www.beppu4rc.jp/chuo/
E-mail:info@beppu4rc.jp

理事	近藤 賢司	理事	大野 雅治	役員	会長	近藤 賢司	S A A	大野 雅治
◇	木村 きぬえ	◇	鳴海 淳郎	副会長	木村 きぬえ	直前会長	平野 英壽	
◇	亀井 孝	◇	後藤 隆	幹事	高宮 勝美			
◇	村津 忠久			会計	河村 貴雄			

VOL. 22-39
2010 年 5 月 18 日

第 1002 回 例会

会報委員長 森 宗明

◆点 鐘 12 : 30

◆R S 別府中央 R.C. の歌

◆唱 歌 茶摘み

会長の時間

会長 近藤 賢司

別府 4 RC 合同事務局移転問題についての会長
幹事会の経緯説明

幹事報告

幹事 高宮 勝美

1. 本日の卓話
「会員卓話」森園伸也会員

2. 第11回定例理事・役員会報告
(平成22年5月11日(火)13:40~
別府商工会議所例会場 7名)

報告事項

1) 別府市内 4 RC 会長・幹事会報告
(平成22年4月23日於ホテルニューツルタ)

◆出席報告

出席委員長 梅津ヤヨイ

本日 の 出 席	会 員 総 数	19 名
	出 席 者	12 名
	事前メイクアップ	1 名
	理 事 会 承 認	0 名
	出 席 免 除	1 名
	欠 席 数	5 名
出 席 率	66.67 %	
前々 回 の 訂 正	出 席 率	100 %
	事後メイクアップ	0 名
	理 事 会 承 認	0 名
	出 席 免 除	1 名
	修 正 出 席 率	100 %
連 続		1 回
通 算		738 回 100 %

・メイクアップ

事前 村津 (別府東)
事後
欠席 平野、椛田、河村、大島、衛藤
出席免除 溝部

合同事務局の商工会議所内への移転 (案) について

1. 中央は移転賛成、別府、東は一部移転反対の意見もあるが、クラブとしては移転賛成。
2. 北クラブは、オーナーに交渉して2万円(税込み21000円)の値引き結果を提示し、移転は反対。



3. 別府、東、中央クラブが移転賛成でも、北クラブは移転反対の姿勢は変わらない。
 4. 反対のクラブがあったので、市内4クラブ間の結束を重視し、今回は移転を見送る。
 5. 今後も、事務局の経費節減につとめる。
3. お祝い

会員誕生日	中尾 誠会員（5月21日） ※記念品をお渡し致します。
結婚記念日	河村貴雄会員（5月20日） ※ご自宅にお花が届きます。
配偶者誕生日	後藤潤子さん（5月23日） ※記念品をお渡し致します。

審議事項

- 1) 2009-2010年度後期立替金請求の件。
※承認
- 2) 「第4回（新・旧）クラブ協議会」の件。
※承認
例会日 平成22年6月15日（火）
12:30～例会
例会終了後～クラブ協議会
場 所 別府商工会議所大会議室 例会場
- 3) 「会長・幹事慰労会」の件。※承認
例会日 平成22年6月29日（火）
18:30～例会
例会終了後～慰労会
場 所 ホテル山水館
会 費 7,000円 *全員徴収
- 4) 5月・6月例会予定の確認
5月4日 「法定休日」
11日 「創立30周年について」
高宮勝美会員
18日 「会員卓話」 森園伸也会員
25日 「会員卓話」 津末美代子会員
6月1日 「会員卓話」 大島由美子会員
8日 「ゲスト卓話」
シンガーソングライター今成佳奈氏
15日 「第4回（新・旧）クラブ協議会」
22日 「会員卓話」 近藤賢司会員
29日 「会長・幹事慰労会」
- 5) その他
○第60回「社会を明るくする運動」標語パネル購入協力のお願ひ。※回覧承認
4. 例会変更のお知らせ
別府東RC 5月27日（木）の例会は、全国RC野球大会壮行会の為 同日12:30～火男火売神社に場所変更
5. 次週例会の予定
「会員卓話」津末美代子会員
「会員コラム」 梶田健治会員
6. 本日の回覧
①「社会を明るくする運動」標語パネル
希望購入
②くにさきRC 週報
7. 本日の配布
①ロータリー探究：「2010～11年度RIテーマは「地域を育み」、大地をつなぐ」
②ガバナー月信No.11
③週報 No.1001



中尾会員に（財）ロータリー米山記念奨学会から米山奨学生のカウンセラー委嘱状が届きました。

○近藤会長

先日、三遊亭圓楽・襲名披露がグランシアターであり、桂文珍、三遊亭好楽、桂米團活と多彩なゲストで盛り上がりました。特に桂文珍の話術には、私の腹の皮がよじれるのではないかと思える程、楽しい講演会でした。

○村津会員

戦後一年間程、福岡県で数学教師をしていましたが、その時の教える子達から、「喜寿記念の同窓会を催したいのでは是非お出で下さい」との案内を頂きました。

ホームクラブ例会欠席をお詫びしてスマイル。事前メーキャップは5月13日（木）杉の井で済ませました。

○森会員

子供の頃、田んぼのあぜ道の「ギシギシ」をもうではバリバリ食べたものです。先日、田舎に帰った時に食べてみました。何だか懐かしく、涙が出ました。それこそ道草を食って来ました。

○森園会員

本日は、拙い卓話ですが、宜しくお願いします。

○大野会員

昨日まで高知に行っていましたが、龍馬ブームで人が多いです。別府も何かブームを起しましょう。森園さん、今日は頑張ってください。

○中尾会員

誕生日のお祝いありがとうございます。

嚥下障害と食形態について

嚥下障害とは、疾病や老化などの原因により飲食物の咀嚼や飲み込みが困難になる障害をいいます。咀嚼した食物を舌を使って咽頭へ送り嚥下しますが、その際、軟口蓋があがって鼻腔へ入るのを防ぎ、喉頭蓋が気管の蓋をすることで、食べ物が気管に入るのを防いでますが、この運動にかかわる神経や筋肉に障害がでると嚥下障害となります。



嚥下障害には向かない食形態は以下のような物があります。

- ①さらさらした液体 [水、お茶、汁物等]
- ②口の中でまとまりにくい物 [肉、かまぼこ、蓮根等]
- ③パサパサした物 [パン、高野豆腐等]
- ④口の中で貼りつきやすい物 [海苔、わかめ、ウエハース等]
- ⑤粘りが強い物 [餅、だんご等]
- ⑥すべりが良すぎる物 [ところてん等]
- ⑦酸味が強い物 [酢の物、柑橘類等]

先程、嚥下障害に向かない食形態で、さらさらした液体やすべりが良すぎる物、パサパサした物と言いましたが、嚥下障害がある人も食事をしなければいけませんので、そういった方にはゼリー食やとろみ食を提供します。

とろみ食にはとろみ剤でとろみをつけますが、とろみ剤にもいろいろな種類があります。とろみという想像するのは、片栗粉（でんぷん）を想像すると思います。片栗粉等でとろみをつけることもありますが、現在はとろみ剤（とろみ調整食品）を使ってとろみをつけています。とろみ剤にも薬のように世代があり、第1世代を“デンプン系”第2世代を“ゲアガム系”第3世代を“キサンタン系”というように分けられます。

第1世代のデンプン系は、とろみをつけるための使用量が多くて、とろみがつくまでに時間がかかることから、時間がたつととろみの状態が変化して使用しにくい面があります。第2世代の



グアガム系は使用量は少なくて済みますが、まだ時間がかかります。第3世代のキサンタン系は、使用量は少なくとろみも早くつくので使用感はとても良いのですがすこしダマになりやすいコスト面が高いです。

ゼリー食には、ゼラチンや寒天を使って作ることもあります。最近多く使われているのは、ゲル化剤というものです。高い温度で固まってくるので、温かい物も提供できるので使用しやすいです。

とろみ食とゼリー食のどちらを嚥下障害の人にさせばいいかという、食材や患者さんの状態により様々なので、様子をみながら提供しているのが現状です。

私が現在の仕事に就いたころは、食べられない患者さんの食事の形態は「きざみ、荒きざみ、ミキサー」ぐらいの形態にしか対応している所ばかりでしたが、今ではかなりの形態に区分している所が増えまして、「きざみ、荒きざみ、極小きざみ、一口大、軟菜、ミキサー、ペースト、ソフト食、ゼリー食、ムース食」等と色々な名称の食事形態があります。ただし、施設ごとに基準はまちまちなので、例えばA施設で「極小きざみ」がB施設では「きざみ」とか副食の大きさや状態もバラバラです。今の医療制度では、患者さんが病院や施設に移動することが多いので別府市の栄養士さんたちが集まってそれぞれの施設の食事形態を共有できるように努力されています。名称を統一す

るのは、なかなか難しいみたいですが、A施設のきざみはこれぐらいの切り方で、B施設では荒きざみとして出される食事というようになっていけば、転院した際の食事形態の対応がスムーズになり、患者さんが食べられなかったり、誤嚥したりするリスクを減らすためにとても重要なことなので、私たちも取り組んでいきたいと思っています。

会員コラム

河村 貴雄

慢心

仕事が思い通りに伸長したり、他人から称賛を受けるようなことがあるとついつい偉そうな気持ちを持ってしまう。「そう、そう、それは私がやったのだ!」「オレが…、オレが…」等。

その大半は多くの人々の協力や恵まれた環境のおかげであるにもかかわらず、自分一人で成し遂げたような気になってしまう。知らず知らずのうちに相手をさげすみ、自慢の心で一杯になる。

また、自分より劣っている人（錯覚であるが）に対し自分の優れていることを得意に思う傲慢さはないだろうか。試合の勝負や、企業の業績でたまたま勝ったとしても勝たせて頂いて有難うございますという謙虚な心境も時には必要なのではな

いだろうか。

たとえ自分の方が優れているといったところで、その自分は親が生んでくれたのであり、努力する能力も親から与えられ、天から授かったものである。自ら得意に思うべきものは一つもないのである。

もちろん信念を持ち日々努力を重ね、好結果が出れば心から喜ばばよい。しかし相手を見下した瞬間から落ちてゆくことを覚悟しなければならぬ。

太陽や空気や水の恩恵なしでは生きてはゆけぬ。周りの人達の支えがなくても生きてはゆけぬ。まさに人は生かされている。

今回は、梶田健治会員です。